

会が運営するスマイル工房を
当法人の運営に統合し、その
一部門として活動していただ
く予定でございます。いづれ
にいたしましても、平素から
関係皆様のご協力をはじめ、
行政当局、企業、団体、市民
の温かいご支援、ご指導をい
ただきながら、授産事業をは
じめ各種事業を進めることが
できておりますことに対し、
あらためて感謝を申し上げます。

本年も厳しい状況下にあり
ますが、すべての障害者が安
心して働くことができる環境
整備に向け、地域の中核的障
害者施設である社会福祉法人
としての視点に立って、工夫
改善を図り、さらなる飛躍が
できるよう役員一丸となっ
て努力して参りたいと考えて
おります。

どうか本年も関係者皆様の
変わらぬご支援、ご協力をお
願いし、新年のご挨拶とさせ
ていただきます。

平成二十二年一月十二日

元日、車椅子の息子を連れて

ショッピングモールに出かけると

今年の元日のことです。日
の出のイオンモールでお正月
の企画でウルトラセブンが、
希望者と握手をしてくれると
いう新聞の折込チラシがあり
ました。帰省していた息子が
喜ぶだろうと思っただけで
みました。息子は四十一歳に
なりますが、重度障害のため
に興味の対象は幼児と同じ程
度です。子供のころテレビで
覚えたウルトラマンがいま
も大好きです。

元日だから人も少ないだろ
うと思っただけで、予想は大
はずれで大変な混雑でした。
店内の会場にはすでに大勢の
人が行列をしていました。先
着五十名に整理券を渡して、
整理券と引き換えにセブンの
ポーズをとって握手をしてく
れるのだそうです。もちろん
子供向けの企画ですから、並
んでいるのは親に連れられた
子供たちばかりです。セブン
が出てくるまでにはまだ一時
間もあるし、三〜四歳の子供
がわいわいいるので私はうん

な人もいるんだよ」と答えて
やります。

ほとんどの子供は、何も言
わずじーと見ているだけです。
普通、街の中で障害のある人
に出会ったとき、珍しそうに
のぞき込むのは失礼になりま
すから遠慮するものですが、
子供にはそんな遠慮も気遣い
もありません。いつのまにか
私と息子の周りに子供の輪が
できました。若い親たちは、
親同士のおしゃべりに熱心で

子供のことはほったらかしで
す。だからといって「あっち
へ行きなさい」といって追い
払うこともできません。

実に居心地の悪い時間を耐
えて、ようやくウルトラセブ
ンが出てきました。整理券が
手に入らなかつた人たちが一
般のお客さんが見守る中で、
ふいに子供ではなく車椅子に
乗った大人が出てきて、セブ
ンと握手をしポーズをとって
はしゃぐ姿は「えー、なにこ
れ」というみんなの視線を感
じて、注目を集めるには十分
過ぎるものがありました。

このような催しの場でなく
ても、これに似た経験は長い
間に何回もしてきましたので、

私自身は慣れているつもりで
した。たとえば息子を連れて
レストランなどに入った場合
によくあることです。楽しそ
うに笑いながら話していた人
たちが、息子と私が隣の席に
座ったとたんに、しーんと静
まることなどは数え切れない
ほど経験してきました。しか
し今回は特に強烈だったので、
終わって人ごみから離れたと
きは本当にほっとしたもので
した。

そのあと、空いているコー
ヒーショップの隅で二人で休
憩していると、初老のご婦人
が「失礼ですが、ちょっとい
いですか」といって近づいて
きました。「このすぐ近くに
日の出福祉園という障害者施
設があるんですが、ご存知で
すか」といいます。「ええ、
よく知っています」と言うと
ご婦人は椅子に座って話は
じめました。

「先ほどウルトラマンのと
ころでお二人を見たとき、私
にはすぐ分かりました。二人
は親子だろうと。このお子さ
んは施設に入っているのだろ
う、お正月だから家に帰って
きて、好きなウルトラマンを

見せてあげようと思っただけ
で、息子が連れて来られたん
ですね。私の娘も日の出福祉
園に入っているから分かるん
です。でも私はこの歳だから
う家に連れて帰れないんです
さつき面会にいつてきたとこ
ろです。その帰りにここに来
たんです。お二人を見て、あ
ーいいなあと思いました。だ
から私は決めました。明日、
息子に頼んで娘をここに連れ
てきてやろうと。人にどんな
に見られても気にしなくてい
いんですよ。子供が喜ぶな
ら、それだけでいいんですよ
ね。うちの子は、ウルトラマ
ンのことは分からないけど、
一日中施設の中にいるより、
大勢のいるところへ来るだ
けで喜ぶはずだから。そのこ
とを二人は教えてくれたの
ね」と言いながら、息子の手
をとって「よかつたね、よか
つたね」と言いました。見る
とご婦人は両方の目に涙を浮
かべていました。

子供たちの興味しんしんと
した目、大勢の、なにーこれ
という目、そしてご婦人の目、
社会の縮図を見せてくれた元
日の一日でした。